



特集

地域連携

「ひと・もの作り唐津プロジェクト」始動!!

シリーズ

学部 & 学生生活紹介

活躍する佐大OB

勇気と行動力で叶えた憧れの舞台美術制作

トピックス

災害急性期を支える、機動性を持った
専門的災害派遣チーム=DMAT

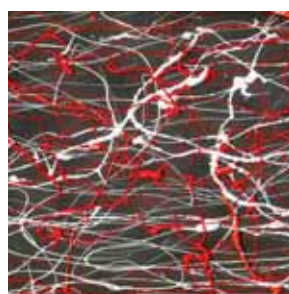
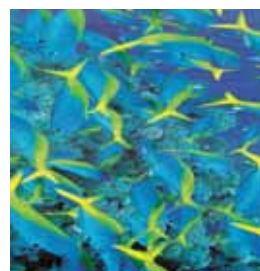
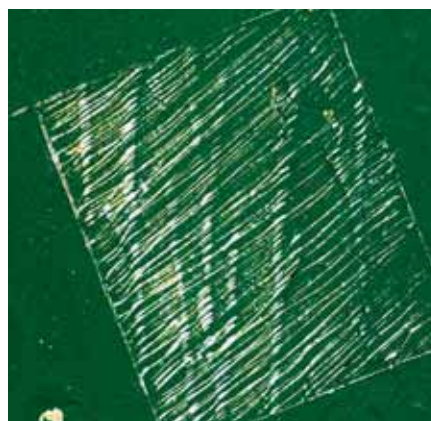
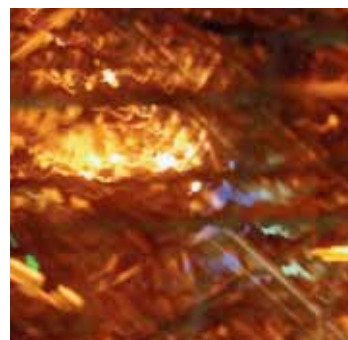
公開講座

クレイアニメ・ワークショップ

「つくるメディア、たのしむデジタル、
わくわくワークショップ」

イキイキ佐大生

サークル紹介 etc





作品展

「ひと・もの作り唐津プロジェクト」始動!!



佐賀県立九州陶磁文化館所蔵



唐津焼陶片

る輪島塗の形、世界に広げるマーケティングの実例を紹介して頂きました。唐津焼が持つ日本文化の特異性は、輪島塗と共通点が多く、大いに参考になりました。この他、12月には鍔金家の増田尚紀氏による「鑄造技術の応用について」、九州大学の池田美奈子准教授による「パウハウス工房のモノ作り」などの興味ある講義が行われました。このような、外部から講師をお招きした講義は、すべて公開講座としており、文化教育学部美術工芸講座の学生と共に、近隣の焼き物関係者などの一般の方も数多く聴きにきて頂きました。

そのほか、全学的な取り組みとして、理工学部の渡和則教授を中心に、X線解析装置などの科学技術を活用して解析・研究する「素材技術講座」や、経済学部の松尾陽好助教授による「市場調査実践やマーケティングなどの「経営戦略講座」も行っています。1年目は、主に講義と演習中心のカリキュラムでしたが、いよいよ2年目からはより実践に即した商品開発や、販売戦略を行っていくこととなります。

さて、私たちが目指しています唐津焼産業というのは、一般の企業が目指すような利益拡大のた

めの大量消費を的に大量生産を考えるものではなく、唐津焼の大切に保っていかねばならない点——洗練された固有の芸術性や素朴であったり伸びやかであったりする造形性など——を守りながら、持続的な活力ある産業となるための、生産量や、販売方法、生産アイテム、経営戦略などを、健康な思想をもってコントロールするように、産業従事者の個々人の中に自覚を持つて進められる産業です。産業規模として決して大きくない唐津焼は、まず己のスタンスを自覚し、そのなかで何ができるか、何が使い手(市場)に喜んでもらえるか、そのためには何をどのように送り出すかを探っていくかなければなりません。市場経済の自由競争の中に盲目に飛び込むのではなく、その特性を生かした、生活の中で切り口を新たにしたい唐津焼の創出を考えています。そしてこのような探求が、九州各地に残る伝統工芸産地の同じように抱えるテーマである、「地域再生」、「伝統継承」、「人材養成」の一例になるよう願っています。このような考えでプロジェクトは、5年間の人材養成の活動を進めていきます。





地場産業を支える次代の人材養成



私たちは昨年10月より、『戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成』（通称・ひと・もの作り唐津プロジェクト）を掲げて活動を始めました。これは、これからの唐津焼産業の若い担い手が、多様な思考と体験を基に、唐津焼を持続した活力ある産業となるように力をつけていくことを目指しています。

現在の唐津焼産業は、ほとんどが個人作家として、個人か家族単位の窯経営という形態であり、その生産は、作家としての自己探求や古唐津研究とそこから発した日用食器と茶事の道具が主なものです。まさに伝統工芸または、美術工芸と呼ぶにふさわしいのですが、これら個人や家族単位の窯経営は、組合の例を除けば産業としての連携、若い者同士の横のつながりなどを殊更作ってきませんでした。相知町天徳の丘公園に設置した『唐津セライト工房』でスタートした講座では、各窯元のお弟子さんや、後継者など計12名の受講生を迎え、週2回、仕事を終えた夕方6時30分から2時間余りセライト工房に集い、様々な授業を展開してきました。その受講生の声の中には、「同じように修行の道の途上にあるもの同士話ができる。」「自分の立ち位置を確認できる。」といった喜びの声を聞くことが出来ました。講義の内容を個人の成長の糧とすると共に、お互いを知り信頼関係を築くことから産業としての連携は始まることを思い、我が意を強くしました。また、受講生の学習意欲は高く、講義に来て頂く先生方も驚きの声を口にします。やはり、仕事に直接関係した内容であることも一因ですが、実社会に出て仕事を始めてより一層の学習の大切さを感じ取るのでしょうか。

多木陽介さんをお招きして、イタリアの伝統文化とその継承のための社会の考え方などをお話ししていただきました。私たちの唐津焼よりも遙か昔から伝わる伝統文化と、現代の気風をうまく融合・熟成させ、地方から世界に独自性を発信するイタリアの地方都市のあり方は、これからの唐津と唐津焼を考える上で大きな示唆を与えてくれました。私たちとは地理的に少し距離の離れた文化、高い伝統工芸を育みながらうまく現代と協調していく成熟した産業のあり方に思いを巡らせて、そこから唐津に立ち戻ったとき、私たちが目指す産業のあり方、もの作りの健康な思想のあり方に思いが至りました。また、「伝統工芸講座」として、日本各地から伝統産業の今日のあり方や問題点の事例を職人の方やこれからの各々の産業の中心的担い手となる方々をお招きして、講義と実習を行ってきました。10月28日には、大分県府市の竹細工職人、中臣一氏に、竹ひごを作ったの実演と、竹細工工芸の現状についてお話をさせて頂きました。11月18日には、石川県輪島の漆デザインプロデューサー 桐本泰一氏に、現代に発信す



文化教育学部美術・工芸講座
准教授

たなか ゆうき
田中 右紀

それでは、これまで提供してきた活動の一端を紹介しま

す。昨年10月9・10日、プロジェクトの立ち上げを記念して開催したシンポジウムでは、東西の思想文化に造詣が深く、演出家で、かつ翻訳家でもある

医学部2年生には、看護科60名、医学科95名の合計155名の学生がいます。特に、医学科は男子51名、女子44名と、医学科としてはめずらしく、ほぼ半数が女子で成り立っています。一般教養などの選択科目を除いて、95人全員が同じ教室で授業を受けるので、喋ったことのない人でも外で見かけたらすぐにわかってしまいます。鍋島キャンパスは医学部だけなので、学科も少なく、学生も少人数です。でも、部活動や学園祭などの学校行事が盛んなので、学科や学年が違っていても、幅広い付き合いができる機会がたくさんあります。一度佐賀大学医学部の学園祭「むつごろう祭」に足を運んでみてください。

2年になってからは、専門的な内容の授業も多くなり、実際に患者さんと接する機会のある実習や、実践的な実験などもあります。このような経験をしていくたびに、学ぶことや気づかされることがたくさんあり、また医学部に入ったという実感が強くなっていくように思います。

鍋島キャンパスでは、多くの学生が部活動をしています。私はバスケットボール部に所属しています。部員は、プレイヤー男子21人、女子18人、マネージャー5人です。高校の部活とは違い、練習の予定やメニューを決めるのは学生で、そのせいか、一人一人が自分やチームメイトのプレーをよく見ていて意見をしっかりともっています。入部したての頃はとても驚きました。部員が多いほうではないのですが、いつも楽しくバスケをしていますし、部活全体での飲み会も定期的に行われています。

部活がない日や部活後は、バイトをしたり、同学年や先輩、後輩と飲みに行ったり、徹夜をしてカラオケで騒いだり、福岡に買い物に行ったり、長期の休みには旅行に行ったり、高校の頃とは少し違った学生生活を楽しんでいます。

アルバイトは、映画館での主にチケット販売や入場口、売店での接客の仕事をしています。お客さんは映画の上映時間に合わせてくるため、過剰な待ち時間やオーダーミス、会計ミスで怒らせてしまうことも何度もありました。お客さんへの対応やクレームの対処など、はじめは失敗ばかりでしたが、何度も注意されて少しずつ仕事にも慣れてきました。今でもまだお客さんに怒られてしまうことはありますが、優しい従業員の人たちと仕事をしていくうちに、やりがいをもって仕事をするこの大切さを学ぶことができました。

授業や試験など大変なこともたくさんありますが、佐賀に来ていろんな人と知り合えて、よかったと思っています。まだ医師として社会にでるのは5年以上も先の話なのですが、医師になっても、今までに出会ってきたいろいろな人達やこれから出会う人たちと、一生の関係でいられたらと思います。そんな、周囲の人たちとの付き合いを大切にできるような医師になりたいと思います。

さまざまな社会経験が 医師としての糧に



とみ た さと こ
富 田 理 子
医学部医学科2年



● ● ● 医学部医学科編 ● ● ●



シリーズ 学部 & 学生生活紹介

学部のことや学生の日常生活を紹介するような紙面があればいいとの皆様からのご要望により、3回にわたりシリーズとして、本号から「学部 & 学生生活紹介」を掲載することといたしました。

今回は、経済学部と医学部医学科です。

今後、16号及び17号にて理工学部、農学部、文化教育学部、医学部看護学科を紹介していきます。
(広報室)



● ● ● 経済学部編 ● ● ●



くら とも こう た
倉 富 孔 太
経済学部経営法律課程4年

夢は、世界一の 公認会計士の

私が所属する経済学部は毎年約300名が入学し、経営法律・経済システムの2つの課程に分かれ、さらにそれぞれ2つのコースに分かれます。私は経営法律課程の企業経営コースに所属し、財務会計、管理会計、経営分析、会社法などの“経営”に直結する分野を積極的に受講してきました。ゼミでは経営分析を大枠として、独自の企業分析を行った上で仮定の証券投資を行い、それは結果的に卒論作成にも大変役立ちました。そもそも私は高校生のときから会計に興味があり、利便性などを考慮して地元の佐賀大学の経済学部に入學しました。総合学科（商業系列）の高校を出ていたので、専門科目についてはスムーズに学習が進みました。私は、都会の大学よりもむしろ、勉強に専念できる環境を大学生活で求めていましたので、実際その時間がゆっくり確保できて、今では佐賀大学へ入学して本当に良かったと思っています。

私は大学ではアルバイト、サークル、資格取得などを両立していくつもりでした。入学してから3～4ヶ月程はその3つを同時並行させていましたが、結局中途半端になり、大学に入った一番の目的である資格取得一本に絞りました。その後は土日返上で毎日勉強に明け暮れていましたが、休みがゼロだったわけではありません。休日は佐賀市内や福岡の方に洋服を買いに出かけたり、長期休暇になると友人と京都や韓国などへ旅行に行ったりもしました。サークルはアーチェリー部で、飲み会の参加の方が積極的だったかもしれませんが、良い仲間巡りに出会って楽しい大学生活を満喫できました。サークル活動は中学・高校の部活とは全く雰囲気違いますし、良い刺激になることも多いので、絶対入った方が良いと思います。私の周りにも後悔している人がいるくらいなので。私は勉強時間を十分に確保したかったのでアルバイトはしないことが多く、しても家庭教師のように比較的短時間で済むものを週に2～3日程度するくらいでした。

お陰様で私は公認会計士の資格を取得^(※)でき、監査法人に就職させて頂くことが決まりました。私は監査以外に、経営コンサルティング、金融サービスにも興味があるので、“世界一の公認会計士”という自分の夢を向上心の原動力として、今後もグローバルに活躍できるよう、日々精進して参ります。

このような結果を残せたのも、理解ある両親や友人達、そして佐賀大学の関係者の皆様のお陰だと思っています。ありがとうございました。
〔※在学生としては、本学初〕





番組で使用された王さん自転車

今だに大学内にある人面魚は、このメンバーで作りました。



佐賀大の彫塑室教授成富先生の退官パーティーにて

勇気と行 憧



ブロードウェイミュージカル「RENT」に出演している女優ニコレットと

10代の頃、将来どんなことをしたいのか考え、夢見て、期待に胸を膨らませていました。

20代ではそれを形にするため行動し、もがきながらもひたすら走り続けています。

30代ではこれまでの出会いで得た人脈を活かし、自分と同じように夢を抱いてる人の力になりたいです。

諦めなければ夢は叶う

加速する好奇心と行動力

それからというもの、福岡の舞台業界ではまだまだ大きな仕事はないので、勉強の為に東京の制作会社やテレビ局に出入りするようになりました。

福岡と東京を行き来したり、作品づくりの為に数10ヶ国海外にも飛び出

たり、私の好奇心と

行動力はどんどん

加速してい

くばかりで

す。生きて

いるうち

にやいた

いことは

全部やる

!! そう

ずっと思っ

てきたので、

やらなきや気

失敗できないプレッシャーに毎日押しつぶされそうでした。なんとかメットまでに全セットを完成させ、装置家さんからもOKをもらったのでその時自分の中でこの仕事をやれるという確信が持てました。

初めてたくさんのお客様の前でキレイに照明を当ててもらっている彫刻を見たときは、うれしさで胸がいっぱいになり感動で涙がとまりませんでした。

一人で乗り込んだこの世界、がむしゃらに突っ走り、たくさんの人との出会いでそれが形になった瞬間。努力は報われるし、諦めなければ夢は叶うものなんだと改めて実感しました。

このデビュー作をきっかけに、お芝居、歌舞伎、バレエ、テレビ、とさまざまなジャンルの舞台美術を手がけることになり、技術面でもちよつとずつスキルアップができたと思います。



国際音楽祭の舞台セット

生きるっていつかは

が済まない性格なんでしょう…。

ここ最近一番おもしろかった仕事は、長崎の野崎島という無人島を貸し切って行われた国際音楽祭です。無人島に東京からプロのオーケストラを呼び、私は舞台美術の担当で特設野外ステージを作りました。

何の設備も整っていない無人島なので、機材や舞台セットを漁船で運び、運悪く仕込み日は大雨だったので、ずぶ濡れになりながらセットを組み、とても過酷な現場でした。本番は野外ならではの自然とコラボした幻想的で美しい舞台となり、大成功を収めました。

その他にも、雑貨店と契約してキャラクター人形を販売したり、作家さんの工房で博多ならではの山笠や飾り山を制作したりと、幅広く活動しています。現在は3月のインテリアショップでのグループ展(※)に向けて、オブジェや新商品を作中で。

手探りで彫刻を通していろんな造形のお仕事をしていきますが、これまで出会ったたくさんの方々に支えられて今の私がいるのです。

生きるってことは自分の人生の物語をつくることだから、在学生の皆さん、そしてこの記事を読んでいるあなた、もしあなた方に叶えたい夢があるのならほんの少しの勇気と行動で未来は大きく変わりますよ…



舟木一夫氏のお芝居で制作した作品

※グループ展「clover」(3月26日～3月31日) 場所…「as FOHN」 福岡市中央区赤坂 1-12-2



動力で叶えた れの舞台美術制作



彫刻家
むら ざと れい こ
村里 礼子 さん
平成 14 年度卒
文化教育学部美術・工芸課程



▲「Sound of music」の等身像。舞台美術作品の代表作

「舞台美術」との出会い

大学時代に漠然とテレビや舞台のセットに興味があったので、「舞台美術」という仕事に憧れを抱くようになりました。福岡に博多座という大

私は佐賀大学の美術・工芸課程を卒業し現在は、彫刻家として、舞台美術や立体造形のお仕事をしています。

小さい頃から物作りが大好きだったので、美術が盛んな高校に入学し、当時の美術部の先生が日展作家の彫刻家・高倉準一氏だったので、先生の手厚いご指導のもとに彫刻という立体の世界にはまっていきました。

佐賀大学では彫刻を専攻し、ここで私はすばらしい仲間達と出会えました。自分の思うように作品が作れず、悩んで彫刻が嫌になった時期もありましたが、気がつくといつも仲間達がいる研究室にいたので、そこがわたしの大事な居場所だったので、改めて実感しています。社会に出た今は、そういう場所はなかなかないので、失って初めてどんなに大切な空間か気付かれました。

そして彫塑室の成富宏教授との出会いで自分の作品に対する姿勢や考え方が変わり、これまで以上に真剣に作品と向き合うようになりました。

佐賀大学での大切な出会い



博多 山笠制作

な舞台劇場が出来た時、劇場を前に母親に「こんな大きな舞台でセットが作れたらなあ」とつぶやいたこと今でもはつきり覚えてます。

大学を卒業してすぐ、博多座の制作会社を調べ、担当者へ電話し自分の作品集片手に本社へかけこみました。制作部を希望していたのですが、この業界のことを何も知らない素人だったので、何でもやるからという条件でアルバイトで入り、最初の1年間は照明、音響、大道具、とにかく言われた仕事は片っ端からすべて受け、いろんな劇場や現場をまわりました。

そこでたくさんの方との出会い、大きな人脈が少しずつできたのです。

照明スタッフで現場に入ったときは、舞台セットにスポットを当てながらも、いつか自分の作ったセットに照明を当ててやると思気込み、作りたいのに作れない環境にひたすら悔しい思いと憤りを感じていました。

掴んだチャンス

舞台用語にも慣れ、基礎知識が身につく、何も制作ができないまま1年が過ぎたある時、運命を変える1本の電話が入りました。それは女優の大地真央さん主演ミュージカル「Sound of music」の公演が博多座で決まり、彫刻を作れないかという依頼だったのです。やっときたチャンスに、嬉しさと不安を抱えながらもこの仕事を引き受けました。

3週間という短い制作期間で等身像の人体彫刻2本、装飾レリーフ40枚、その他小道具や舞台を埋め尽くすほどの大きなアルプスの山のセットなど、とにかくものすごい量の立体セットを作りました。朝から晩までひたすら制作でセットが一つ出来るごとに、自分の手にもまた一つ傷が増え、学生時代とは違う仕事としての彫刻なので、



照明の仕事

子どもから大人まで クレイアニメ作りを 体験!!

ユニーク
公開講座文化教育学部
教科教育講座

准教授

なか

むら

たか

とし

中 村 隆 敏



クレイアニメ・ワークショップ 「つくるメディア、たのしむデジタル、 わくわくワークショップ」

平成 20 年度佐賀大学公開講座としてクレイアニメ・ワークショップが、県立有田工業高校を会場にして行われました。

メディア・リテラシーは単にデジタル機器の操作に秀でるだけでなく、メディアの特性、問題点を見極める能力です。そのために、メディアを用いたものづくりやデジタルによる表現を体験することで、映像メディアの活用能力を養えることができます。

本講座では、アニメーションの基礎を理解しやすいクレイアニメを簡易な専用ソフトを用いて制作してもらいました。内容は、台本の作りかた、ビデオカメラによる撮影の仕方、コンピュータによる編集の仕方を学んでいき、自分だけのオリジナルクレイアニメーションを完成させました。

参加者は小学生から 70 代までと幅が広く、子供からお年寄りまでクレイアニメの面白さを体験していただきました。キャラクターを少しずつ動かし、ビデオカメラで 1 コマ 1 コマ撮影していきます。自分のつくったものが動くことに純粋なアニメーションの驚きと楽しさがあります。活動はグループに分かれて行いましたが、どのグループも熱心で、動きを確認する際に歓声が起こりなごやかな雰囲気です。最後に効果音や BGM を加えると立派な作品です。最後に全ての作品を DVD にして上映会を行い、皆で鑑賞しました。

講座の延長として、クレイアニメを用いた教材開発を附属中学校と共同研究し、学校現場や生涯学習への応

用も検討しています。さらに、平成 21 年度よりスタートするデジタル表現技術者養成プログラム「創造的人材育成 誰でもクリエイター」でもアニメーションを用いた授業が展開されます。

映画、テレビ、アニメ、マンガ、ゲームなどの映像メディアが今の日本人の心の原風景となりつつあります。また、それらサブカルチャーと呼ばれたジャンルは今や日本の知的コンテンツ産業の根幹でもあり、世界中から注目され新たな研究対象にもなっています。

今後もクレイアニメに限らず、映像コンテンツ関連の公開講座を開いていければと考えています。



災害急性期を支える、 機動性を持った 専門的災害派遣チーム = DMAT



救命救急センター 医員
もと むら とも かず
本 村 友 一

「災害」とは何でしょう？地震、雷、火事、おやじ（元々は台風の意）などの特殊な現象が起きてこそ災害と認識されている方が多いようですが、誤りです。医療上の「災害」とは、「一定域内で医療供給・需要のバランスの崩壊した状態」をいいます。普段の救急医療体制では対応しえない多数傷病者が発生すれば「災害」です。当院 ER（救急初療室）でも重症患者が連続搬入された「災害」がしばしばみられます。

1995 年阪神淡路大震災が発生しました。6,400 人以上の死者と 41,000 人以上の傷病者が発生し戦後未曾有の災害となりました。この災害を通し本邦の初期医療体制の組織的立ち遅れが浮き彫りになりました。死者のうち PTD (Preventable trauma death; 防ぎえた外傷死) と呼ばれる、適切な初期診療で死亡を回避できた可能性のある人の数は 500 人にも及ぶと考えられています。

災害急性期に専門医療救護班を現場に送り込み、傷病者との接触及び初期診療を早めれば多くの命を救える可能性があります。DMAT は Disaster Medical Assistance Team の略で、「災害急性期（概ね 48 時間以内）に活動できる機動性を持った専門的災害派遣チーム」です。DMAT は厚生労働省に認定・登録されており、災害発生時には被災都道府県や厚生労働省医政局の要請で出動します。新潟

※外傷医療・災害医療に関する学習会、研修会や訓練の予定や報告を「エマルゴ佐賀」のホームページ上に掲載しています。

<http://m-pe.tv/u/page.php?uid=xcjwg823&id=1>



中越沖地震、岩手宮城内陸地震でも日本 DMAT が活躍しました（筆者は岩手宮城内陸地震へ出動致しました）。現在、全国に DMAT が約 550 チーム（佐賀県には僅か 6 チーム）存在しています。

日本 DMAT 隊員養成研修では、倒壊家屋内等の閉所などでの現場医療活動、現場救護所でのトリアージや初期診療、被災地内病院支援活動、SCU (Staging care unit; 広域搬送拠点診療施設) での医療活動、DMAT 指揮本部活動、被災地外への広域搬送等について実践演習を行っています。筆者は東京立川の災害医療センターにてインストラクターとして隊員養成に協力しています。

災害基幹病院である当院は災害発生時に医療活動の中心的役割を担うことが求められています。災害時には職種や専門性を越えた協力・連携が必須です。そのためには、多くの人々が災害医療や災害時のシステムについて理解しておく必要があります。災害医療学習会、実践訓練等とマニュアルの見直し作業の反復が必要です。当院更には、佐賀大学挙げての災害訓練も未だ実現しておらず、今後の早急な課題です。

災害医療について多くの人が学び、考え、有事の際には一人でも多くの被災者の救命に地域や組織で挑めるような準備が必要です。今後も微力ながら少しでも佐賀、日本、世界の外傷医療・災害医療の発展に貢献すべく精進致します。

世界初

低温で膨らむ ナノ磁性粒子を発見 !!



理工学部
物理科学科応用物理学講座
教授

てい しょう ぎょう こう
鄭 旭 光

普通、物質は熱を加えて温度が高くなると膨らみ、逆に温度が低くなると縮みます。ところが、温度が変化しても熱膨張がほとんど起こらない物質もあります。鉄—ニッケル等の合金では、このようなゼロ熱膨張が1896年にスイスの科学者シャルル・エドワール・ギヨームによって発見され、1920年にノーベル賞を受賞しています。熱によって膨張がないということは、わずかな誤差も許されない精密機械などで非常に有用であり、広く応用されています。

また、最近、温度が低くなると逆に膨らむ物質も発見され、セラミックスの1つ、タングステンジルコニウムという物質で、1℃冷やすと10万分の2.6体積が膨らむ(一見非常に小さいように見えますが、熱膨張に関しては劇的に巨大です)という記録的な負熱膨張率が達成されています。トップ科学誌 *Science* (1996) に報告され、負熱膨張率材料を通常の材料に混ぜることによって、熱膨張を自由自在に制御できるので大変注目されました。

今までの熱膨張の研究は大きな物体で成されてきましたが、今回我々は約5ナノメートルの酸化銅(CuO)ナノ粒子において「図1」、CuOの磁気転移温度より低温(175K以下)で熱膨張率が大きな負の値(-1.1×10^{-4} /℃)をとることを世界で初めて、発見しました。この値はタングステンジルコニウムの世界記録の4倍に当たります。磁性体のナノ粒子の負熱膨張の現象は、今までまったく知られておらず、原理的に注目される現象です。ナノマシンなどナノサイズの精密機械を実現するためには、ナノ材料の熱膨張率の研究を行うことが今後重要となってきます。

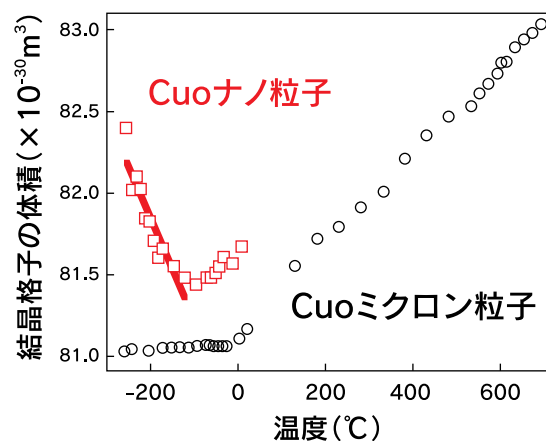
本研究成果は高く評価され、英国の科学雑誌『*Nature Nanotechnology*』2008年12月号に掲載され、*Nature Nanotechnology* のハイライト論文にも選ばれることとなりました。

今後は、磁性ナノ粒子における負の熱膨張率の発現機構が解明され、高温でも負の熱膨張率を持つナノ材料の開発されることが期待されます。

また、今回の発見の意義として、ナノ粒子での磁気と負熱膨張との相関を示したことがあげられます。殆どの先端機能材料は磁気と関わりを持ちますが、今回の発見はこれらの分野に波及効果を及ぼし、今までに無い新マルチ機能ナノ素子の開発につながる可能性があります。さらには、温度と圧力でナノ粒子の磁気的電気的特性を制御できる可能性に繋がることになり、今まで想像もできなかった新規機能、即ち温度と圧力で作動するナノスケールのスイッチとセンサなどが開発できる可能性も出てきました。



図1



温度を変化させたときの酸化銅の体積変化



すぐれた教師を育てるために

～教育実践演習の試行、教育実習の高度化～

文化教育学部
教科教育講座 教授
さ な が た け し
佐 長 健 司



今日の社会的変化によって学校教育の課題は多様化、深刻化している。そのため、すぐれた教師が求められる。このことは、大学における教員養成に対する厳しい批判、要求に転じる。

そこで、文化教育学部では5年間にわたって、精力的に教員養成改革を進めてきた。その第1は、教育実習を中心とした教員養成カリキュラムの改善である。学部と大学院教育学研究科との合計6年間を見通して体系化を図り、いずれの学年にも課題を明確にした実際的な実習を導入した。しかも、実習校に「丸投げ」しないで、学部教員が教育実習指導の一部を担当する指導体制とした。さらには、佐賀市教育委員会と教育実習に関する協定を締結し、母校実習廃止も視野に入れ、佐賀市内の約30校の小学校、中学校において教育実習を多様に実施するようになった。

第2は、地域との連携の強化である。佐賀県教育

委員会と包括的な連携・協力協定を締結したことが大きい。それにより、教員養成、教員研修、学校教育課題研究の3領域で、11の共同事業を実施している。教員の養成、採用、研修について一貫して共同で議論する場ができたのである。また、佐賀県の学



校教育について共同で分析し、その質的水準の向上のために提言したり研究会を開催したりしている。一方、学生は教育ボランティアとして地域の学校に貢献するとともに教育実践について学ぶ場を得ている。こうして、大学と教育行政、学校とを一体化し、相互構成的に改革を進める契機を得たとも言えよう。

これらの文化教育学部における改革の事実は、一書にまとめ、本年3月に刊行する予定である。

(佐長健司、上野景三、甲斐今日子編著、2009『佐賀大学文化教育学部研究叢書Ⅳ 教師をはぐくむ—地方大学の挑戦—』昭和堂)。



有明会 会長
よし むら ま ゆ
吉 村 真 由
文化教育学部人間環境課程2年

障害のある方との
触れ合いで、
自らの成長に気づく



～ボランティアサークル有明会～

こんにちは♪私たちは有明会というボランティアサークルです。有明会では、ダウン症や自閉症などの障害のある方々と一緒に余暇時間をすごす活動をしています。春にはハイキング・夏には海水浴にキャンプ・秋にもハイキング・冬にはクリスマス会に豆まき会とい

うように、年に6回、季節ならではのレク会という余暇活動を行っています。たった年に6回ですが、この6回に参加される障害のある方々は本当に楽しみにしているそうです。

各レク会では、ただ遊ぶだけではなく、工作をしたり、ゲームをしたりと会ごとに工夫をし、内容を学生が考え、企画して、障害のある方々を招待して行っています。このレク会は、毎回、中心となって会を企画・運営する実行委員というものを学生の中から決めて進めていきます。実行委員をすると普段とは違う視点から物事を見るようになり、障害者や障害児の成長に気付くことができるだけでなく、自分自身が成長することも出来ると私は思います。

会の中での障害のある方と学生の活動の様子を見て、「どうしてこうなるのだろう?」「ここはどうしたら分かりやすく伝えることができるのだろうか?」と私自身も考えるようになりました。そして、それぞれが感じたことについて学生同士

や保護者さん達と意見を交換することで、新たな発見や、考えをたくさん得ることが出来ました。

有明会には文化教育学部だけでなくすべての学部の人たちが参加しています。そのために同じ学部の人だけではなくさまざまな学部の人に出会うことができます。普段の大学生活ではなかなか出会う機会が少ない他学部の学生と触れ合うことができるのも有明会の魅力の一つです。

有明会のレク会の最後には必ず、「12の誕生日」という歌を歌います。楽しい会の最後に楽しそうに歌う障害者、障害児、学生、みんなの様子は、私を「また明日からがんばろう!」という気持ちにさせてくれます。

私は、そんなたくさんの魅力を持った有明会が大好きです。



全国最大規模の学術論文大会、 全九州学生 商経ゼミナール大会を開催



経済学部ゼミナール連合会委員長

まつ お ひ さ こ
松 尾 妃 佐 子

経済学部経営法律課程3年



2008年11月23日、24日に佐賀大学で、第52回全九州学生商経ゼミナール大会という討論大会が行われました。これは、九州各地の大学で経済学・経営学・商学を学んでいる学生による、全国最大規模の学術論文大会です。ゼミ・研究会などの単位で論文を作成し、それをもって対抗パート（討論の対戦相手）と討論を行います。私たち佐賀大学経済学部ゼミナール連合会はこの大会の実行委員として大会の運営をしてきました。

今回のテーマは、「一期一会～出会い・ふれあい～」でした。一期一会は、出会いとは常に人生で一度きりのものと心得て、相手に対して精一杯の誠意を尽くさなければならないという茶道の教えを説いた言葉です。この討論大会では、普段接することのない他の大学の学生や助言講師の先生、議長団の方などたくさんの人との出会いがあります。その大切な出会いの中でお互いが研究の成果を存分に発揮し、ふれあっていくなかで互いに高めあってもらえたらと思いこのようなテーマにしました。

この大会を佐賀大学で開催するために、まず大学構内での場所・日程の確保が必要でした。そのために大学側との交渉をしたり、通年この日程で行われている大学祭の日程を変更していただきました。また、参加者を募集するために大学内の各ゼミに直接お願いにうかがったり、授業時間中の広報活動もしました。そうして集まった参加者と意思の疎通がなかなか取れずに苦労したこともありました。

大会を実行するにあたっては、私たち実行委員も様々な人との出会いがありました。施設の借用や、広報活動を支えてくださった学校関係者の方や、一緒に大会を運営してくれる加盟校のメンバー、そして大会に参加する学生、その一人ひとりとのお出会いの中で、今までになかったような経験をしたり、様々な考え方などに触れることで私たちも大きく成長することができたと感じました。

この大会を通して、人と出会い、協働していくことが自分の成長に繋がるのだと思いました。大変でしたが、この経験は私たちにとって大きな財産となりました。



佐賀大学ブランドの特別純米酒「悠々知酔」 — 新酒が出来上がりました —

地域貢献事業の一環として、地場の酒造メーカーと連携し造り始めた、本学オリジナルブランドの清酒「悠々知酔」の販売も今年で3回目となります。今年、窓之梅酒造からバトンを受け取ったのは、佐賀市大和にある老舗の酒蔵、やまと酒造です。すっきりとした中にも、味のあるおいしい新酒が出来上がりました。ぜひ、一度お試しください。

※お求めは・・・

佐賀大学生協同組合、佐賀玉屋、大和ジャスコ、ゆめタウン、佐賀市内の酒取扱店等にて販売

電話、FAX又はメールでのご注文は、以下の取扱となります。

〒840-0027 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学生協同組合

E-mail Sadai.Coop@ma2.seikyou.ne.jp

TEL0952-25-4450 FAX0952-25-4287



読者アンケートご協力をお願い

広報誌「かちがらす」や佐賀大学へのご意見、ご要望等、皆様の声をお聞かせください。いただきました貴重なご意見等は、今後の広報誌の紙面作りや大学運営の参考にさせていただきます。

いままでのご意見等への反映事例



ご意見
ご要望

先日、大学を訪れましたが、雑草やゴミなど雑然としているところがありました。構内美化のための取組をされては、いかがでしょうか。

事例

「キャンパスクリーンデー」として、学長以下、職員及び学生の参加により、毎月1回全学一斉に清掃を行うこととしました。



ご意見
ご要望

お土産用に「佐賀大学ぼうろ」みたいなのがあれば、いいと思います。

事例

現在、佐賀大学生協の協力の下、県内有名製菓会社との連携により、佐賀大学オリジナルのお土産を商品化に向け、企画検討中です。

特別企画

読者アンケートを回答された方へ、もちろん佐賀大学マスコットキャラクター「カッチーくん」のオリジナルミニタオルをプレゼント!!(平成21年4月末日消印有効)



ご希望の方は、「カッチーくんミニタオル希望」にチェックをいれて、住所、氏名欄にご記入願います。
(なお、当個人情報、ミニタオル送付以外の目的には使用いたしません。)



ご意見
ご要望

これからは、国立大学も広報活動にもっと力をいれるべきではないでしょうか。

事例

佐賀大学広報室では、昨年度より新たな取組として以下のような活動をしました。

- ・学外向け「メールマガジン」の発行
- ・TVCMを国立大学初の試みとして開始
- ・佐賀駅での定期的なイベント
- ・パルーンフェスタ会場で、佐賀大学ブースを設けた。
- ・東京新宿高島屋での「大学は美味しいフェア」に参加
- ・九州地区国立大学としては、初のFMラジオによるCM
- ・福岡、佐賀、長崎JR主要各駅へ広報誌や大学案内を設置

編集後記

文部科学省が目下国立大学

に要求している大きなことの一つに、個性化があります。これは、広報にとっても大きな課題なのですが、佐賀大学の場合、個性化の一つとして、「地域とともに発展する大学」をキャッチフレーズに掲げて取り組んでいます。これは今後も大きな柱になると思われま。

今回本誌の特集「ひともの作り唐津プロジェクト」は、その顕著な例です。佐賀を代表する地場産業である唐津焼の未来のために、美術、工学、経済の分野において大学の持つ力を投入し、新しい発想と知識を持った人材の育成と唐津焼の活性化を目指すというプロジェクトです。また、医学部関連で取り上げた「救命救急センター」も、直接地域住民の安全のために重要な役割を演じています。佐賀大学が地域にとって、なくてはならない存在となり得ているか、皆様の評価をお願いしたいと思います。

広報としては、本年1月にホームページの全面リニューアルをしました。中でもフロント頁の「注目のコンテンツ」は、本学の活動の重要な取組4つを厳選し、アピールしています。佐賀の今が一目で分かります。是非アクセスしてみてください。

(広報室長 早瀬 博範)

バドミントン部



部長
まえの ひろ む
前之原 拓夢
理工学部知情報システム学科3年

こんにちは！バドミントン部です。

私達バドミントン部は現在男子17人女子7人の計24人で、毎週月・水・土曜日の週3回佐賀大学体育館で楽しく練習を行っています。

5月に熊本で行われた九州リーグでは多くの先輩方の応援もあり、男子は団体の2部で全勝優勝することができました。しかし、1部との入れ替え戦で惜しくも負けてしまいました。女子は残念ながら2部に降格してしまいました。この悔しさをばねにして、次の九州リーグでは男女共に1部昇格できるように頑張ります。

OB・OG会や九州大学、長崎大学、西南学院大学との3回の定期戦もあり、幅広く多くの人たちとの繋がりを作って一期一会の出会いを大切にしています。

バドミントン以外でも夏に2泊3日のキャンプや、新歓、クリスマスコンパ、追い出しコンパ、卒業コンパ、試合後の打ち上げなど多くの飲み会もあり、他にもたくさん行事があります。

部活中はみんな活気があり、かなり元気に盛り上がっています。どんなに落ち込んだことがあっても不思議と部活に行くと元気になります。先輩や後輩とみんな仲が良く、休みの日にはよく遊びに行ったりして、とても充実した毎日を送っています。

興味がある方は写真も沢山ありますのでHPの方をご覧ください。

http://www.geocities.jp/sad-ai_bado/mein.html



室内楽部



部長
お ざき たつ ひさ
尾崎 立尚
医学部医学科3年

室内楽というからには室内で音楽をやっているんだろうなあ、というところまでは皆さん想像されるかもしれませんが。室内楽とはクラシック音楽のジャンルの一つで、複数人で演奏を行うアンサンブルのうち各パートを一人ずつが演奏するために作曲された曲をさします。偉大な作曲家の人々が作った室内楽曲、そんな素敵な曲をバイオリンやチェロ、フルートなどの管弦楽器を用いて演奏する、というのが私たちの活動の中心になっています。

現在部員は20名程、人数の少ない医学部においての部員集めには苦勞をしていますが、クラシック音楽、そして楽器の響きを愛する部員達にひばられ、その歴史は受け継がれています。主な発表の場としては10月の学園祭、3月の卒業演奏会、不定期での訪問演奏をおこなっています。また、部員各々が楽器を弾けるという特技を生かし、佐賀県内で活動している様々なオーケストラやアンサンブルに参加させていただき、多くの方々との交流を持っています。

私は小さい頃からバイオリンをやっており、すでに15年以上楽器と付き合っています。とはいえ、のめりこむという

こともなく今までやってきました。そんな自分がこの部活と縁ができて4年、楽しい時期も苦しい時期もありました。でも苦しい時期、やめたいと思う時、いつも



自分を引っ張りあげてくれたのは部員の皆が奏でる美しい音、その中にいるとき感じる心の昂りでした。楽しい時にはいつも共に笑ってくれる仲間がいました。部長という立場になり9ヶ月、部活のことも自身のこともたくさんを感じ、教えてもらった時間でした。

3月の卒業演奏会、その場にいる全ての人々と感動し、笑えたら、と思います。



誌 上 ギ ャ ラ リ ー

作品名

「消 失 点」

いまばやし

今林

あきこ

明子

(教育学研究科教科教育専攻美術教育専修1年・西洋画専攻)

(第62回二紀展にて優賞受賞)



【作者プロフィール】

- 1985年 福岡県生まれ
- 2003年 第59回福岡県美術展 岩田屋賞
- 2004年 第38回福岡市美術展 市長賞
- 2006年 第30回九州青年美術公募展
九州朝日放送賞
- 2007年 ACRIL AWARD2007 大賞
第61回二紀展
- 2008年 福岡教育大学教育学部生涯スポーツ・芸術
課程卒業
第27回損保ジャパン美術財団選抜奨励展
第9回春季二紀展
第62回二紀展優賞
- 2009年 第6回はひ絵画トリエンナーレ 優秀賞

【作者コメント】

“日常に潜む不安や虚無”の表現をテーマに写真を用いた絵画を制作しています。描いては消すを繰り返し、画面の広がりを意識して仕上げました。



カッチーくん

本学の情報を携帯電話で見ることができます。簡単アクセスはQRコードをご利用下さい。
携帯用 URL: <http://daigakuic.jp/qr/qssaga-u.png>

